

第2学年 生活科学学習指導案

指導者 ○○ ○○ (○○領域)

1. 日時 令和○年 ○月 ○日 (○) 第4校時 (11:40～12:25)

2. 学年・組 第2学年○組 ○○名

3. 場所 2年○組 野外実習室

4. 単元名 「ぐんぐんそだてミニトマト」

5. 単元の目標

(知識・技能)

- ・植物にも生命があり、成長していることや野菜の特徴、変化に気付くことができる。
- ・1年生の時の生活科や日常生活での経験を活かしながら、野菜の世話をすることができる。

(思考・判断・表現)

- ・野菜の変化や成長の様子について、調べたり感じたりしたことを絵や文で自分なりに表現したり伝えたりできる。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・野菜の成長を楽しみにしながら、親しみと関心を持って世話をすることができる。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・植物にも生命があり、成長していることや野菜の特徴、変化に気付いている。 ・1年生のときの生活科や日常生活での経験を活かしながら、野菜の世話をしている。	野菜の変化や成長の様子について、調べたり感じたりしたことを絵や文で自分なりに表現したり伝えたりしている。	野菜の成長を楽しみにしながら、親しみと関心を持って世話をしようとしている。

7. 指導計画(全15時間)

第1次 野菜作りに挑戦 (1時間)

第2次 さあ育てよう (3時間) …

第3次 大きく育て、美味しく育て (8時間本時4/8)

第4次 できたよ みんなの野菜 (2時間)

第5次 できた わかった もっとやってみたい (1時間)

8. 単元について

(1) 教材観

本単元は、生活科学学習指導要領に示された生活科の内容のうち「(7)動物を飼ったり、植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。」である。ミニトマトの変化や成

長に関心を持ち、植物を大切にすることが出来るようにすることを目指していく。また、野菜には変化や成長にあった世話の仕方があること、野菜たちも自分たち同様、生命を持っておりその素晴らしさに気付くことを目標としている。

本単元では、失敗しづらく成長の過程がわかりやすいミニトマトの栽培を行う。ミニトマトは強い植物で、失敗しにくい反面、育て方によって成長に違いが生じることもあり、野菜作りの入門として栽培し観察することに適した教材だと考える。

また、算数の授業で学んだ「長さ」を活用する。ミニトマトの記録に客観的なデータを導入し、より科学的な学習へと近づけたい。

(2) 児童観

① 日常の生活の姿

本学級は全体として、明るい元気な雰囲気を持っている。積極的に自分の思いを伝えようとする児童に目を奪われがちになるが、うまく自分の思いを伝えられずにいる児童の姿に絶えず気を配っておく必要がある。

また、話すことは得意だが聞くことに課題を持つ児童もいる。

学習では意思表示三色カード、個人用ボードを使用し全員が価値判断・意思決定を行い授業に参加できる場面を多くとるようにしている。

② 生活科の学びの中で見せた姿

ア) 学校探検で見せた姿

多くの児童は、下級生ができたことの喜びや2年生のお兄さん、お姉さんとしてのプライドと責任感で意欲的に学習に取り組んだ。学級では見せないような頼もしい姿を見せる児童が多く見られる。

イ) ミニトマトの栽培で見せた姿

5月の連休明けに種まきをしてから毎日水やりなどのお世話を続けてきた。一週間前にミニトマトの種を蒔いて以来、児童は定期的に水やりを続けてきた。芽が出たり、大きくなることに喜びを感じて記録を続ける反面、せっかく成長した芽を間引かなくてはいけないことに気の毒でかわいそうという気持ちを表現する児童もいた。間引いた芽を持ち帰って育ててもよいことを伝えたと安堵の表情を見せたことも印象的なことである。

③ 育ててきたものと育てたいもの

日々の観察でミニトマトがどのような変化をしているのかを楽しみにしている児童が多い。中には、知らない虫の幼虫を見つけて「どこから来たのだろう。」という新しい問いを持った子もいた。メディア・コミュニケーション科や国語科の「疑問を調べて解決しよう」の学習で、ミニトマトをテーマに設定した子もいる。「自分のミニトマトがどのように育っていくのか知っておきたい。」「どうしたら失敗せずにミニトマトを育てることができるのか調べておいしいミニトマトを作りたい」という思いだった。

未知の事象に対するワクワク感や、想定される事象に対して備えておこうとする意識を育てていきたい。

(3) 指導観

本時では、二つのミニトマトを比べる活動が中心となるため、ペア学習を導入する。芽が出始めた状態のミニトマトの成長の様子を観察し、絵や言葉で観察カードに記録していく。同じ対象であるが、友だちが観察したものを比較することで、自分にはないものの見方を知ることができる。観察する前に、観察の視点を確認し明確にする。視点を与えることは生活科では重要である。

気づきをペアと共有する。さらに、学級で交流することでさらに深い気づきへと導く。振り返りの視点を与え、気づいたこと、分からなかったことを知ることで新たな問いを設定することができると考える。

9. 本時について

(1) 本時の目標

ミニトマトの観察を通して変化や成長の様子に気づくとともに、友だちのミニトマトと比較して同じところや違うところに気づく。

(2) 本時の展開

○主なる指示・発問 *留意点 ◇支援 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される児童の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・ 資料等
導入 5分	1. 今までのミニトマトの成長と世話したことを振り返る。 ○これまでのミニトマトが育ってきた様子を振り返りましょう。 ・種をまいた ・芽が出た ・水をやった。 ・双葉が出た ・肥料をやった。 ・本葉が出た ・まびきをした。 ・大きくなった。	*これまでの育てたことの履歴を振り返る	みつけたよカード 探検ボード ミニトマトの鉢 今までの記録
35分	くらべてみよう二つのミニトマト 2. 観察の視点を確認する。 ○比べるとは何をすることなのか話し合ひましょう。 (1) 自分のミニトマト ・前と変わったところを見つける。 ・前と変わらないところを見つける。 (2) 友だちのミニトマト ・同じところを見つける。 ・違う所を見つける。 3. ミニトマトの観察記録をつける。 ○観察記録をつけましょう。 (1) 自分のミニトマトの観察記録をつける。 (2) 友だちのミニトマトの観察記録をつける。 4. 二つのトマトを比べて話し合う。 ○二つのミニトマトを比べて気づいたことを話し合ひましょう。 (1) 話し合ったことをグループボードに記入する。	* 前回の観察記録を手掛かりに比べる。 ◇観察の内容が分かりにくい児童には具体的な作業内容を示して支援する。 ・よくみて見てかく。 ・触った感じをかく。 ・においをかぐ。 ・長さを測る。 ■ミニトマトの観察を通して変化や成長の様子に気づくとともに、友だちのミニトマトと比較して同じところや違うところに気づくことができたか。	ミニトマト 探検ボード クーパー ものさし

ま と め 5 分	5. ふりかえりをおこなう。 ○話し合っ て気付いた をみつけた よカードに 書きましょ う。	*ふりかえり の視点を与 える。 分かったこ と・気づい たこと、分 からなかつ たことに分 けて書くよ う伝える。	
---------------------------	---	---	--

(3) 評価の観点

・評価の観点：ミニトマトの観察を通して変化や成長の様子に気づくとともに、友だちのミニトマトと比較して同じところや違うところに気づくことができたか。(思考・判断・表現)

(4) 板書計画 *画像で実際の板書(グループボード)をつけています。

くらべてみよう二つのミニトマト (1) 自分のミニトマト ・前と変わったところを見つける。 ・前と変わらないところを見つける。 (2) 友だちのミニトマト ・同じところを見つける。 ・違う所を見つける。	グループ用ホワイトボードを掲示する	グループ用ホワイトボードを掲示する
--	-------------------	-------------------